スプーン

plan 1/20

sec 1/20

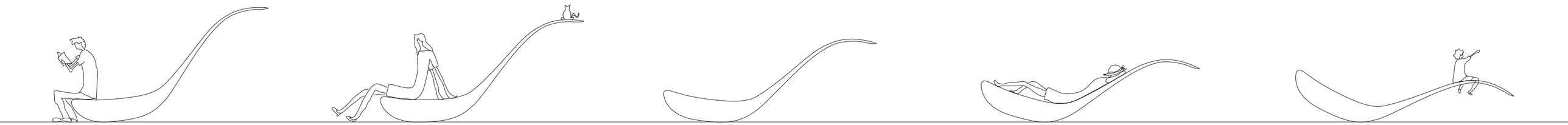
スプーン

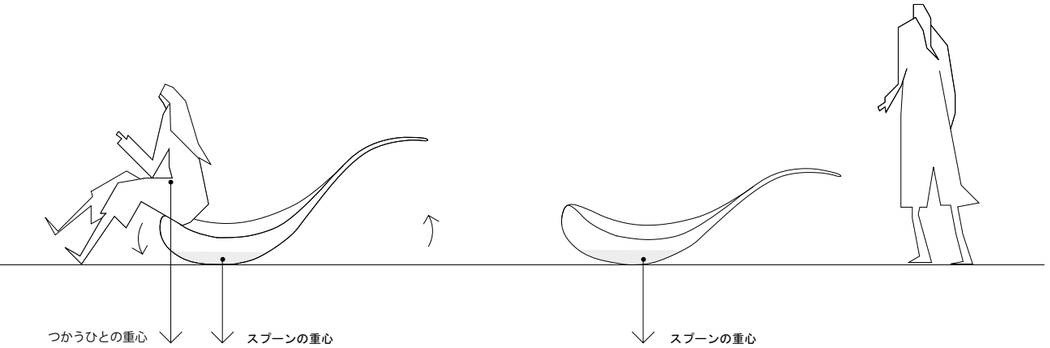
人が家具を扱うという関係ではなく、家具が人に受け入られる存在となるのでもない。

身体と家具が共生する椅子を提案する。

“椅子に座る” というひとつの行為にも様々な状態があるものだ。
その時々の気分や環境によって、手をついたり、足をのばしたり、絶えず変化を繰り返している。
スプーンに座ると、そのちょっとした変化に呼応するようにゆるやかにバランスを保つ。

人とスプーンが同調するやわらかい表情が空間全体へと広がっていく。



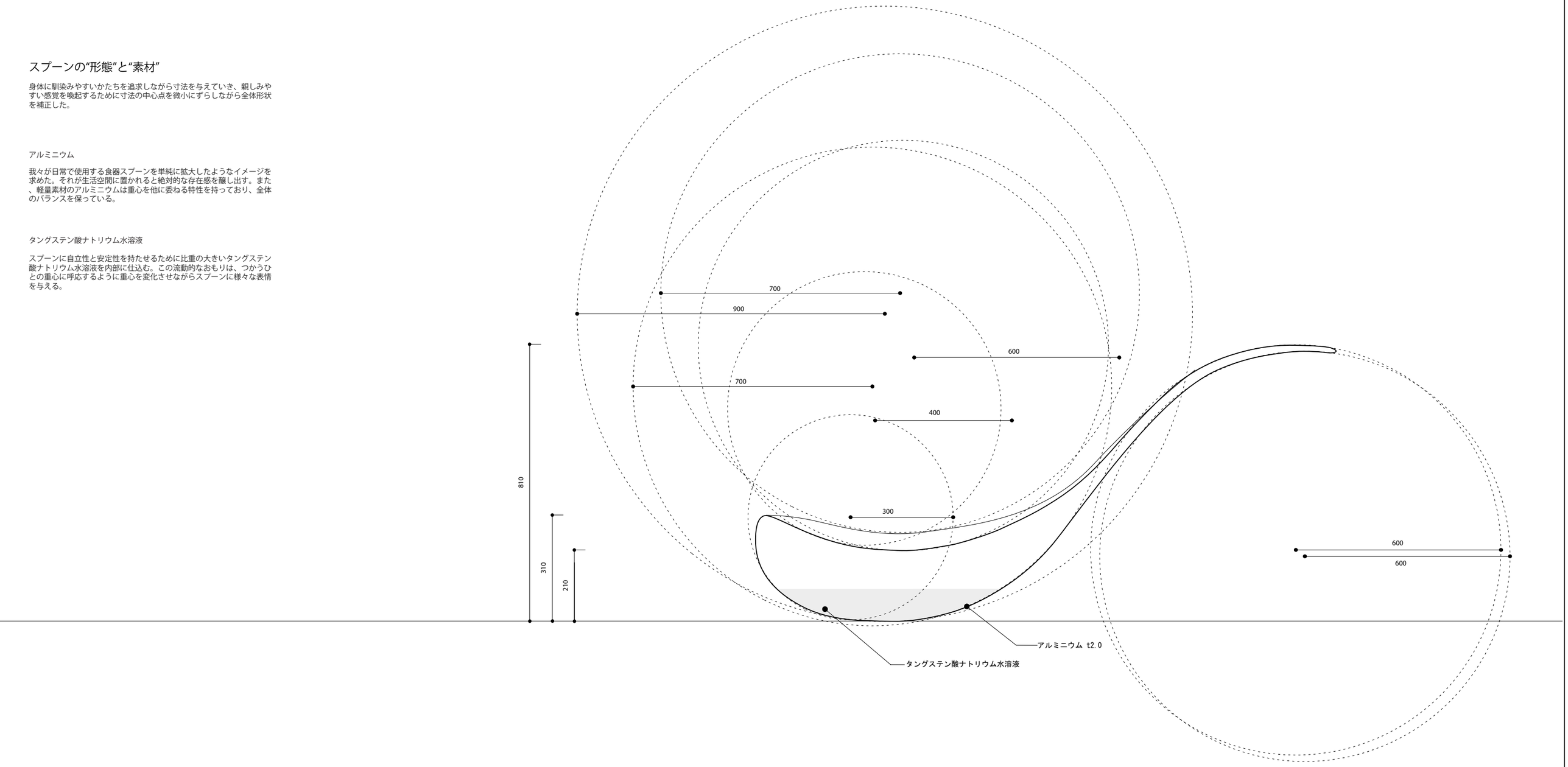


スプーンの“形態”と“素材”

身体に馴染みやすいかたちを追求しながら寸法を与えていき、親しみやすい感覚を喚起するために寸法の中心点を微小にずらしながら全体形状を補正した。

アルミニウム

我々が日常で使用する食器スプーンを単純に拡大したようなイメージを求めた。それが生活空間に置かれると絶対的な存在感を醸し出す。また、軽量素材のアルミニウムは重心を他に委ねる特性を持っており、全体のバランスを保っている。

タングステン酸ナトリウム水溶液

スプーンに自立性と安定性を持たせるために比重の大きいタングステン酸ナトリウム水溶液を内部に仕込む。この流動的なおもりは、つかうひとの重心に呼応するように重心を変化させながらスプーンに様々な表情を与える。